

機能的アセスメントに基づく行動支援計画作成アシストシステム操作マニュアル

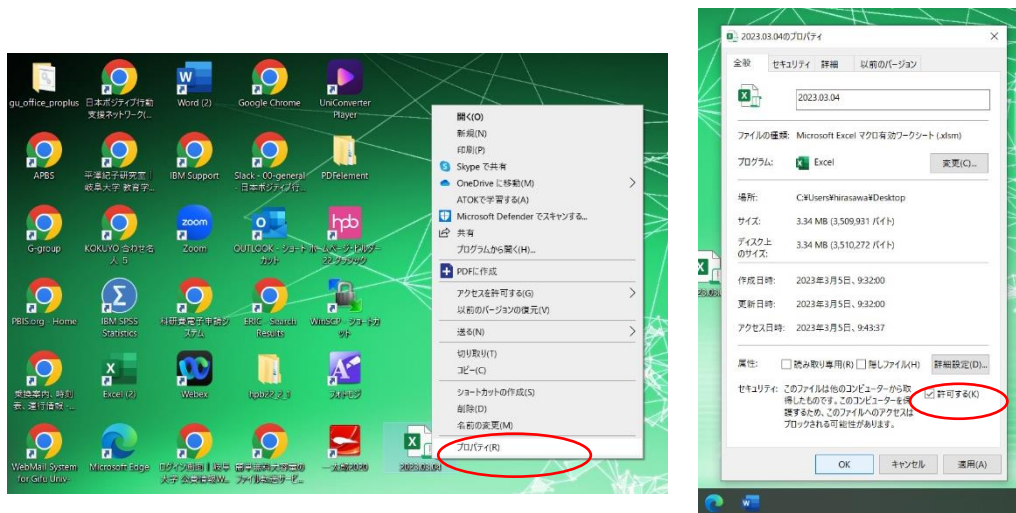
- 本システムは、JSPS 科研費 22K02742 の助成を受け、行動面の困難を有する児童生徒に有効な支援計画作成するために開発したものです。
- ご使用は自由ですが、論文や報告書等にまとめられる場合は、以下の引用をお願いします。
 - ・平澤紀子・笹竹佑太・松下光次郎(2023)機能的アセスメントに基づく行動支援計画作成のためのアシストシステム 岐阜大学平澤紀子研究室HP <https://www1.gifu-u.ac.jp/~hirasawa/learning.html>
 - ・平澤紀子・笹竹佑太・松下光次郎(2023)機能的アセスメントに基づく行動支援計画作成のためのアシストシステムの開発 行動分析学研究, 38(2).

アセスメントのダウンロード

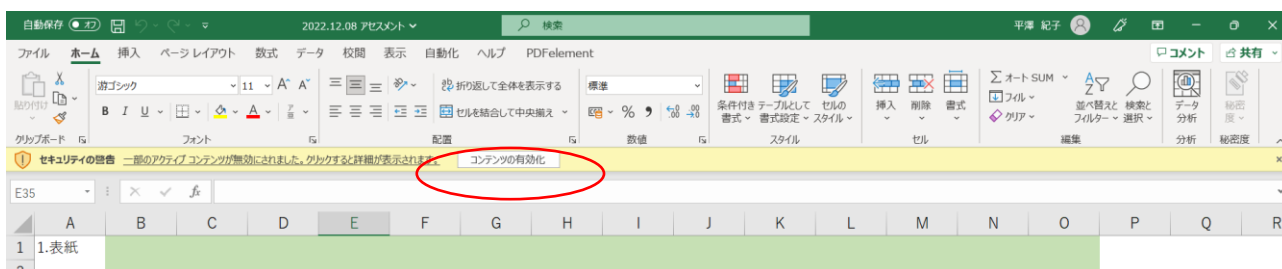
- 初めてアセスメントのファイルを開いた時に以下の表示がでた場合



ファイルを右クリックして [プロパティ] の [全般] の [セキュリティ] の「許可する」にチェックを入れる。



- アセスメントを開いて、セキュリティの警告がでる場合は、コンテンツの有効化を押す。

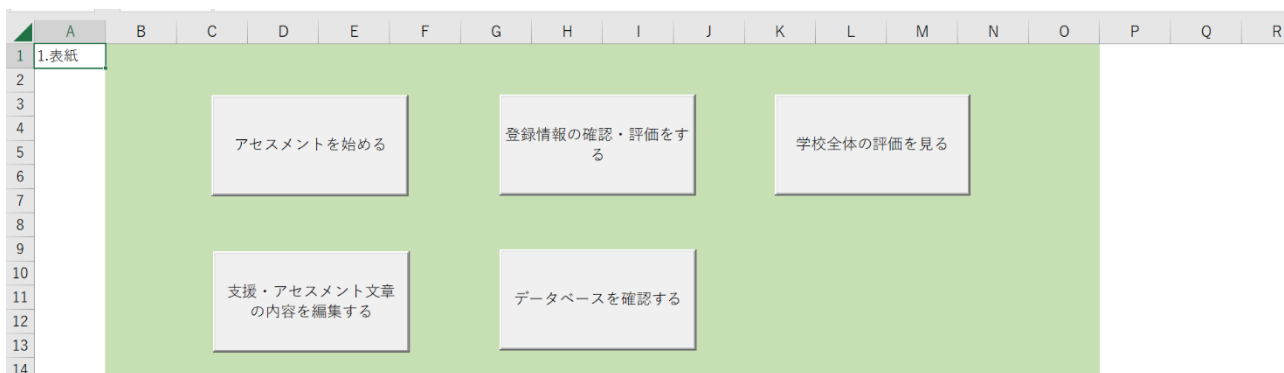


アセスメントの使用法

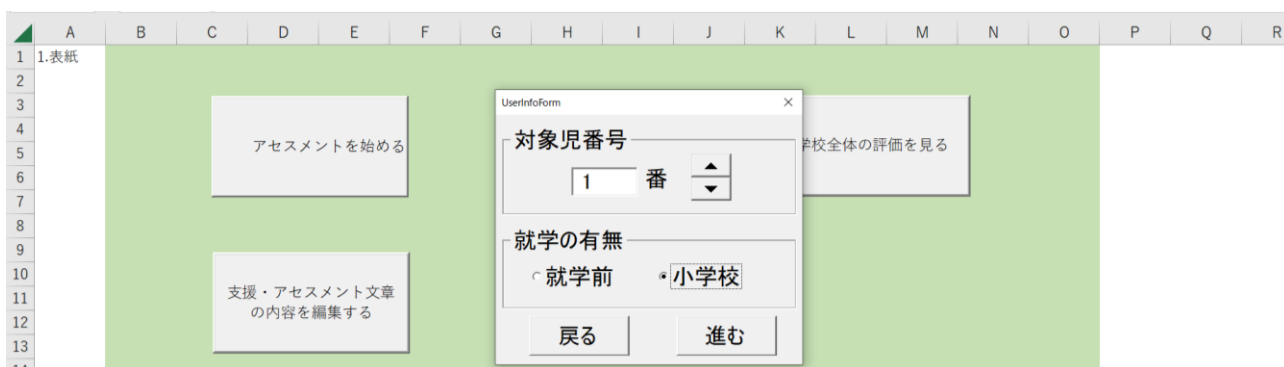
- 特別支援教育コーディネーターの先生がアセスメントのファイルを管理して下さい。
- 特別支援教育コーディネーターの先生は就学前情報を担任と共有し、入学時の配慮を行って下さい。
- 担任の先生は、1学期終了後に、アセスメントに対象のお子さんを入力して下さい。
- アセスメントは全部で5頁です（1 表紙、2 情報、3 アセスメント、4 分析、5 支援）

1 表紙（1頁目） 操作内容を選択する。

- 「アセスメントを始める」を押す。



- お子さんの番号を選び、小学校を選択し、「進む」を押す。



2 情報（2頁目） お子さんの成長していること、困った行動の様子を入力する。

- 就学前に登録してあるお子さんは、登録情報が表示される。
- 就学前情報と比べて成長していることを入力する。
- 困った行動について該当項目を選択する。

「3：少しある」「4：とてもある」のお子さんは「登録して次に進む」を押す。

「1：まったくない」のお子さんは登録して、終了。

5. 支援
 対象児番号：1 担当/学校： 入力年月日：2022/11/30

困りが生じる場面	授業場面
困りが生じる状況	指示や説明を聞く時 集団の活動に参加する時 注目されない時
困りの現れ方(どんな行動がみられるか)	【逸脱】 すべきことをしない 指示されたことではない他のことをする
その行動をしたら生じる結果	注目：先生や友達が目にする、かわかる (注意も含む)
困りの意味	注目されていない場面や状況で、その行動をすると、注目やかわりが見られる

支援の方法

「注目獲得機能」への有効な支援
 ※適切な行動で注目を得られるようにする

- 現在している適切な行動をほめる
- 注目しやすい声にする
- 早い時間に声をかける
- 先生の手伝いや、先生にかかわる役割をつくる
- 音に認められる役割をつくる
- 参加状況を取り入れる
- 好きなかわりをを用いて課題を促す
- 課題をしたら、かわかる
- 困った行動にはかわからない
- 注目して欲しい時の適切な表現にかかわる
- 注目を得る適切な表現を教える (みてみて、できました、できて下さい、一緒にして)
-
-
-

自由記述欄(入力できます)：現在している教材の準備をほめる。プリントを配布する際にして配布したらほめる。

グラフと支援の方法を登録

戻る

印刷する

支援の効果

困った行動の減少	望ましい行動の減少
1 変化なし 2 増加 0減少	1 変化なし 2 増加 2増加

6 支援(5頁目) 計画した支援の効果を評価する。

・表紙(1頁目)の「登録情報の確認・評価」を選び、登録したお子さんのデータを呼び出す。

5. 支援
 対象児番号：1 担当/学校： 入力年月日：2022/11/30

困りが生じる場面	授業場面
困りが生じる状況	指示や説明を聞く時 集団の活動に参加する時 注目されない時
困りの現れ方(どんな行動がみられるか)	【逸脱】 すべきことをしない 指示されたことではない他のことをする
その行動をしたら生じる結果	注目：先生や友達が目にする、かわかる (注意も含む)
困りの意味	注目されていない場面や状況で、その行動をすると、注目やかわりが見られる

支援の方法

「注目獲得機能」への有効な支援
 ※適切な行動で注目を得られるようにする

- 現在している適切な行動をほめる
- 注目しやすい声にする
- 早い時間に声をかける
- 先生の手伝いや、先生にかかわる役割をつくる
- 音に認められる役割をつくる
- 参加状況を取り入れる
- 好きなかわりをを用いて課題を促す
- 課題をしたら、かわかる
- 困った行動にはかわからない
- 注目して欲しい時の適切な表現にかかわる
- 注目を得る適切な表現を教える (みてみて、できました、できて下さい、一緒にして)
-
-
-

自由記述欄(入力できます)：現在している教材の準備をほめる。プリントを配布する際にして配布したらほめる。

グラフと支援の方法を登録

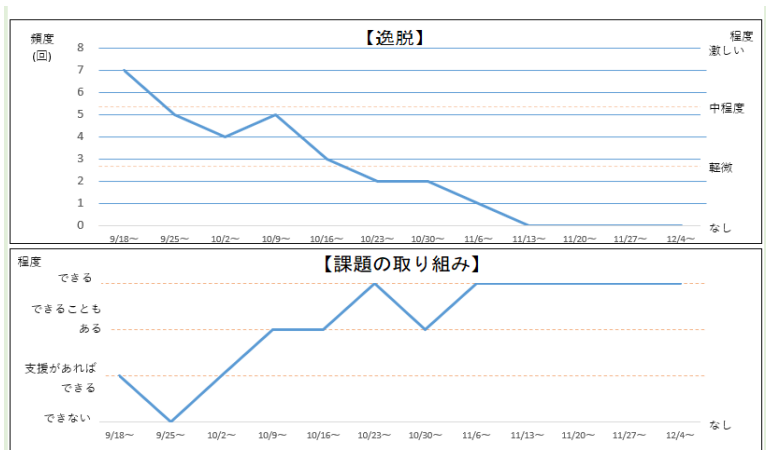
戻る

印刷する

支援の効果

困った行動の減少	望ましい行動の減少
1 変化なし 2 増加 0減少	1 変化なし 2 増加 2増加

- ・週か月毎にお子さんの行動の様子を入力する。数えられる行動の場合は頻度、数えられない場合は程度
- ・支援の効果(困った行動、望ましい行動の変化)を選択する。
- ・実際に行い、有効であった支援にチェックを入れる。
- ・「グラフと支援の方法を登録」とすると保存される。有効な支援は来年度に引き継ぐ。



9月 9/18 カレンダーの入力

期間	回数	程度	期間	回数	程度
9/18~	7		9/18~	2	
9/25~	5		9/25~	1	
10/2~	4		10/2~	2	
10/9~	5		10/9~	3	
10/16~	3		10/16~	3	
10/23~	2		10/23~	4	
10/30~	2		10/30~	3	
11/6~	1		11/6~	4	
11/13~	0		11/13~	4	
11/20~	0		11/20~	4	
11/27~	0		11/27~	4	
12/4~	0		12/4~	4	

0 なし
1 軽微
2 中程度
3 激しい

4：できる
3：できることもある
2：支援があればできる
1：できない

●本システムを作成するにあたり、以下の文献を参考にしました。

Durand, V.M. & Crimmins, D.B. (1988). Identifying the variables maintaining self-injurious behavior. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 18, 99-117.

平澤紀子(2020). 小学校通常学級における発達障害児の行動問題と有効な支援に関する分析 岐阜大学教育学部研究報告(人文科学),68,121-128.

井上雅彦(2012). 強度行動障害の評価尺度と支援手法に関する研究 厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業 平成 23 年度総括分担研究報告書, p.36.

O' Neill, R. E., Horner, R. H., Albin, R. W., Sprague, J. R., Storey, K., & Newton, J. S. (1997). *Functional assessment and program development for problem behavior: A practical handbook*. Pacific Grove: Brooks/Cole Publishing Co.

大対香奈子(2016). 通常の学級で支援を必要とする問題行動の機能的アセスメント——小学校と幼稚園の比較—— 近畿大学心理臨床・教育相談センター紀要, 創刊号, 1-12.